

# 北陸大学ライブラリーセンター報

## Bulletin NO.8

⇒をクリックすると本文がご覧になれます。

⇒ 水上勉の「電腦暮し」をたまたま読んで

小林 輝治(ライブラリーセンター長)

⇒ ベルリンの壁の崩壊、そして10年

大楽 光江(法学部教授・「国際取引法」担当・学術資料委員)

⇒ 上海外国語大学図書館について

王 涵 オウカン(外国語学部教授)

⇒ グローバルな「蜜」を求めてー 北陸大学の図書館ー

山口 兼美(外国語学部4年生)

⇒ 心と知のオアシス CLEVER HOUSE

宋 宏 ソウコウ(法学部4年生)

⇒ ワシントン大学 Health Sciences Library

山本 千夏(薬学部助手・薬博)

⇒ <ギャラリーホール>

< Bulletin NO.9 >

# HOKURIKU UNIVERSITY LIBRARY CENTER

北陸大学ライブラリーセンター報  
2nd-Half 1999



## 水上勉の「電腦暮し」をたまたま読んで

小林輝治



最近読んだ一冊の本に、水上勉(みづかみ・つとむ)の『電腦暮し』というのがある。「電腦」とは、中国から日本に入ってきたことばで「コンピュータ」のことを指している。

私は妙な題をつけるものだなと思いながら読み始め、そのうち驚いてしまった。これは我々が考えているような本、書物とはまるで違っていた。それもそのはず、これは、ことし80歳になるひとりの老作家が、コンピュータ(この場合パソコン)の音声入力装置に向かって、必死に語りかけ、その音声を文字化、本として出版されたものだったのである。

彼は70の時、心筋梗塞(しんきんこうそく)で心臓の3分の2を失った。80を前にまたまた眼底出血による網膜剥離(もうまくはくり)等で手術。しかし、片目はほとんど視力を失い、書くにも不便を生じ始めてくる。だから今はパソコンに向かってしゃべるしかなくなったのだと、その経緯をも明らかにしている。それにしても、本というのは、本質とか根本とかいう熟語によっても分かるように、元々、人生にあって、最も重要なもの肝心なものを与えてくれるものだという意味をもっている。

では80にもなり、なお必死にパソコンに向かって、我々にいたい何かが、作者水上にはあったのだろうか。彼は「病気で悟る」という禅の老師のことばを引きこう語っている。

「1日がようやっと、すぎるとほっとするし、翌日がくるのは当り前に思えなくて、楽しいのである。この心境は、3分の2まで心筋が壊死、まず1万人に1人しか助からないという、その命を奇しくも助けられたという彼自身の思いから来たものであることはまずまちがいない。目についても同様である。とにかく失明状態から、片眼だけでも視力が回復できた頃、退院から通院に変わり、改めて電車の「乗り継ぎのために立ち寄る東京駅でグアム島の旅行のチラシ」1枚見ても「海のブルーが実に美しく、涙が出るぐらいの感動だった」と著書には書かれている。まさに重い病気を得てはじめて悟り得るような心境、境地の発見であろう。

もちろん1日1日が楽しい、見るものすべてに鮮烈な印象を覚える、これは何も重い「病(やま)い」を得なければというものではない。幼い頃から、禅宗になじみ親しんだ彼らしい結びのことばにしても、これをよくよく噛みしめ、なるほどそうかと心から納得できれば同じことである。そしてここにまた、いわゆる読書の喜びとか醍醐味(だいごみ)もあるのだと考えられよう。

「『一大事と申すは今日只今(ただいま)の心也。それをおろそかにして翌日あることなし。総ての人に遠き事を思ひて謀(はか)ることあれども面的(てきめん)の今を失ふに心づかず』。とにかく、今日一日に全力を尽くすことである。それなくしては、とても先のこともうまくいくはずがない。人間は、苦境にあるほど、苦しい今を忘れて、未来に夢を馳せようとする。しかし、今の苦境を乗り越えずして、明るい未来はありえない。」

ここに隠されている、深い意味に気づかない人は、やはり読書の何たるかを知らない人である。さらにまた、そういう人は、人生の真実とか、自分の幸福というものも、最後まで見つけることのできない人ではないかと思われる。

(ライブラリーセンター長)



## ベルリンの壁の崩壊、そして10年

大 楽 光 江

この6月、国際会議に出席するため初めてベルリンを訪れた。空港からのタクシーはブランデンブルク門を通過。10年前の「壁崩壊」の際、熱狂したひとびとがあふれていた場所だ。往時の偉容をしのばせる再建中の旧帝国議会。旧東ベルリン地区は、ほぼ全域が工事中。無数の丈高いクレーンが青空に腕を伸ばしている。「壁は消えた」と運転手氏。その時、広い道路の路面を斜めに切って幅15cmほどに塗られた帯が走っているのに気づいた。それは他ならぬ「壁」の跡だった。東西両ドイツの国境以上の存在だったベルリンの壁。冷戦構造を体現し、それを超えようとする人の行く手を阻み、多くの命を奪った。その壁は、今や路面上に描かれた帯に過ぎない。

ベルリンの壁の崩壊に続く過去10年に、世界は大きく変容した。ソ連解体、それに続く旧社会主義諸国の市場経済体制への移行、情報通信技術の飛躍的發展、そしてガット・ウルグアイ・ラウンドから世界貿易機関(WTO)の誕生。これらが、国際的な政治経済の枠組を劇的に変え、国際的企業取引の基礎構造も大きく変容させることになった。

今や、国境はボーダーレス経済化とコンピュータ・ネットワークの発展で薄れつつあるようにも見える。たとえば、1997年7月タイのパーツ貨急落に始まる通貨危機。円・リング(マレーシア)・ウォン(韓国)・ルピア(インドネシア)などアジア各国通貨の対米ドル・レートは年間30-40%も下落した。世界的投機資金が、それら各国でのバブル崩壊の兆候に即座に反応して逃げ出したのだ。このような短期資金は世界GNPの一割に及ぶ。膨大な額だ。その世界的移動は、各国の好況・不況の波を急激に増幅する。その引き金を握るのはコンピュータ・ネットワーク上を瞬時に飛びかう情報だ。コンピュータ通信は国境を知らない。不況は、あっという間に大不況になり、周辺諸国へ、そして世界へと波及する。その大波の可能性が、諸国をボーダーレス経済という運命共同体に投げ込んでいる。

しかし、取引がいかにやすやすと国境を超えとしても、法制度には依然として国境が色濃く残っている。効果的な「世界統一法」が存在しない現状では、国境を超える取引であっても、それを規制するのは原則として各国の国内法だからだ。そして、各国法のパッチワークをWTOなどによる国際条約が覆っている。この10年の国際的な政治経済技術的激変は、各種の国際条約を動かし、また各国法をも大きく変えてきている。

国際ビジネス法務(企業の国際取引に関する法務)を扱う、私の担当講座「国際取引法」も、当然この激変の影響を受けている。国際的談合など独禁法問題・特許権など知的所有権の国際的ライセンス・国境を越える安売りへの反ダンピング・環境規制・紛争解決(国際的な民事訴訟や仲裁)など、具体的テーマは多種多様だが、授業では、その時々最新のトピックをめぐって、国際状況・日本と各国の法制度から多面的な分析を行う。受講生には、「現状はどうか?」「なぜ、そうなっていると思うか?」といった質問が頻繁に飛ぶ。単なる知識の習得ではなく、自分の頭で考え、自分の言葉で表現できるようになってもらうためである。自己判断と自己表現が自在にできるようになってこそ、この予測不能の時代を楽しく生きていけるからだ。また、試験には、たとえば「米国企業から特許侵害訴訟で訴えられた企業の法務部長として、どう対応するか?」といった問題を出すことがある。受講生を、幅広い視野から、直ちに、大まかではあっても的確な法務戦略で対応できる人材に育てたいからである。その能力は、どんな業種でも、どんな企業でも役に立つだろう。

現在、日本経済は5%近い失業率を抱え再生への苦しい道を歩んでいる。規制緩和は、企業が行政からの保護をもう当てにできないということを意味する。自由の拡大は自由競争の激化でもある。巨大企業の倒産・企業の国際的な大規模再編が続発する。そして各個人も厳しい競争にさらされることになる。受講生が、この国際的大競争の時代を悠々と泳ぎ切るための小さな自信を身につけてくれること、それが私の願いである。

(法学部教授・「国際取引法」担当・学術資料委員)

## 上海外国語大学図書館について

オウ  
王カン  
涵

7月31日～9月3日迄外国語学部中国語学科学生の短期留学の引率として中国を訪問しました。その際に視察した中国の図書館システムについて述べさせていただきます。

[ 中国の社会情勢と教育について ]

中国の人口は1996年末現在の政府発表のデータでは約12億人です。現在は13億人を越えたのではないかとされています。

しかも、中国では約56の民族から成っており、広い大地には地域差が大きく、且つ長い間に戦乱も続いていたから、国家を再建するのは大変困難であります。1949年に毛沢東が「中華人民共和国建国」を宣言し、社会主義中国経済の基礎をつくりました。しかし、多難な国家では、復興するまで大変厳しく、1966年～76年にかけて、新たな社会構成を求める「文化大革命」が発生しました。

その「文化大革命」を一つの起点として行われた国家の教育事業としてまず取り組まれたのは、大学入試制度の改革・高等教育の再建でありました。

中国では共和国建国後、国家建設のエリート養成という趣旨から、授業料の国家負担を原則としてきました。その後、近年来の市場経済化の中で、私費生や委託生をも受け入れるようになりました。しかし、私費生や委託生は成績が悪くてもお金さえあれば入学できるというデメリットも生じました。

そのため、1994年度より、入試合格点を統一し、学生が一律に授業料を徴収する改革が一部の大学で試行的に始まりました。1997年度からは、全国のすべての大学で学費が徴収されるようになり、それに、寮費等を加えると年間3,500～4,500元（中国人平均年収の約60%）必要となり、学生の経済負担は増大しました。しかも、農村出身者に多い貧困家庭の学生には極めて負担は増加しました。

こうした学生に対しては、奨学金や学費貸与制度等の整備が進んでいますが、公費生制度の廃止は、貧困家庭の学生に不利に働いており、益々、北京・上海のような都市部と内陸の農村部との経済・教育格差が生じています。

特に経済状況が悪い農村部では教育を受けたくても、教える先生も居なく、教育を受けられない状況であります。当然、死活問題にも及ぶ働き手の一人として考えられているため、経済的・学力的に進学も出来ません。そう考えると、日本の学生は非常に恵まれており、「学ぶ」という気持ちさえあれば全員が教育を受けられることに感謝する必要があると思います。

そういった日中の教育問題の違いを前提に上海外国語大学図書館について述べたいと思います。

[ 上海外国語大学について ]

上海外国語大学は、中国・上海市の東北部に位置し、魯迅の墓や記念館のある虹口公園の近くにあります。国家教育部直属の重点大学であり中国 4 大外国語大学の 1 つです。1949年、上海ロシア語専科学校として発足し1956年、英語、独語、仏語学科を設け上海外国語学院となり、1964年に上海外国語大学となるに至りました。現在は、日本語、英語、対外漢語学部など11学部、18学科があり、また付属外国



上海外国語大学 正門

語学校（本学外国語学部中国語学科卒業生の今村友美さんは、今年の9月にそちらの日本語教員として赴任しました）や外国語現代文学研究所、国際問題研究所など3研究所、4研究センター、さらに出版社をも有し、日本、アメリカ、フランス、ドイツ、オーストリア、スイス、カナダ、アフリカ、韓国などの国々から留学生を受け入れています。学生数は約4,000人、キャンパスは12万m<sup>2</sup>で今年、50周年を迎えています。

[ 上海外国語大学図書館について ]

上海外国語大学の図書館の設立は1950年で、面積は9,800m<sup>2</sup>あり、建物は古く感じました。この図書館は事務室、編集部、報刊部、中外交流通信部、参考閲覧部、現代技術部の6部門で管理され、閲覧室は8つあり、中文閲覧室、英文閲覧室、英文機関（国家教育委員会文献情報センター）閲覧室、その他各言語の閲覧室、報刊閲覧室、字引・辞書類や百科事典等が揃えられている閲覧室、珍藏資料閲覧室、内蔵資料閲覧室となっています。座席数は708席あり、100万冊余りもの書物が収蔵されており、中国、その他の国の定期刊行物を1,000種類以上取り揃えてあります。また、イギリス、ロシア、ドイツ、フラン



右：何 寅（上海外大教授・社会科学研究院 副院長）  
左：筆者

ス、日本、スペインと主要な言語の言文資料が豊富であり、英語の言語、言語学史、教育学参考書、イギリス・アメリカ文学、文学評論文、近代の主要な作品や研究、現代の各流派の文学代表作や評論文、及び重要な辞書、百科事典類が多様に揃っています。

現在、上海外国語大学では今の図書館の隣に新しい図書館を建築中です。この新しい図書館は、全館業務がコンピュータネットワークで管理され、1階には利用者のためのコンピュータ図書検索大ホールが設けられるとの

ことです。6階には多目的会議室、原版映像放送室（CD-ROMによる映像をコンピュータで見ることができるようになること）、多目的実験室があり、各閲覧室はすべてコンピュータネットワークでつながれ利用者はノート型コンピュータ等で資料を検索、調査することができるようになります。図書館の職員は全校の教員、学生、職員の現代的な教育環境を作るため全力をつくしているそうです。

## [ 上海外国語大学図書館と本学ライブラリーセンターの文献検索システムについての比較 ]

現在、上海外国語大学の図書館では、図書館業務をコンピュータで管理し運営しています。これは、蔵書の管理や検索、本の貸出、返却等が主なようです。どの作業もシステムが古く、操作するには少し難があるように見受けられました。(このシステムに慣れないと使用しづらく、簡単には操作できない。) また、このシステムは、図書館の職員のみしか使用できず、特に、文献検索については、利用者は図書カードを探して本のある場所を確認する方法しかないようです。これと比べると北陸大学のライブラリー



上海外国語大学 コンピュータ教室

センターは、各階に操作が容易な文献検索システムが設置されており利用者にとっての利便性が図られていると感じました。また、CD-ROMの検索、利用するシステムもなく現代の図書館から見ると利用者にとっては少し古く不便のように思われます。現在、建築中の新館では、この辺が改善され文献検索システムやCD-ROMの検索、利用システムが利用者に開放され図書館の利便性が図られるようです。

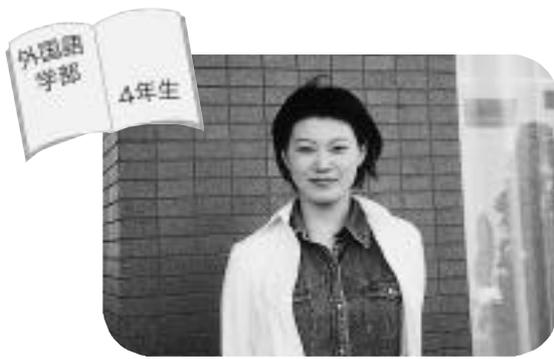
## [ まとめ ]

北陸大学のライブラリーセンターではこのようなサービスは既に導入され近代化が図られております。なによりも、利用者のことが考えられており、利用者しやすい図書館であるといえるでしょう。それに、上海外国語大学の図書館は建物自体がコンクリート作りであったためか木のぬくもりのある北陸大学のライブラリーセンターに慣れている私にとっては何か落ち着かず違和感のようなものを感じました。このようなことを考え合わせると、北陸大学のライブラリーセンターは利用者にとって大変利用しやすくかつ落ち着いて読書や調べ物ができる図書館です。私は日本の文部省に相当する中国教育部の漢籍整理研究委員会の名誉教授でもあり、中国・香港・台湾の多くの図書館を見学したことがあります。比べて見れば、本学のライブラリーセンターは確かに誇る事ができる図書館だと思います。みなさんも世界の図書館を見て利用すれば、規模は別にして北陸大学ライブラリーセンターの良さを再認識することが出来るかと思えます。皆さんが他国を訪れる際は是非その国の大学図書館を訪れることをお勧めします。

## [ 終わりに ]

今回、この紹介文を作成するにあたりご尽力くださった上海外国語大学の呉友富副学長、国際交流処 陸楼法処長、社会科学研究院副院長何寅教授、図書館職員の方々、また、電算課 阿部光正職員と本学の中国語学科学学生、常本奏江さん(98C048)、西岡知美さん(98C054)に全面的に感謝いたします。

( 外国語学部教授 )



## グローバルな「蜜」を求めて 北陸大学の図書館

山口 兼美

色は、それぞれ人の心や体に何らかの影響を与えていると言います。例えば青は血圧を下げ、脳波に影響を与えたり、ピンクは攻撃性を抑えることが、科学的な研究から明らかにされてきています。病院や老人ホームでは、色彩を使って治療効果を高めているところもあつたりするくらいです。初めてこのライブラリーセンターに入ったときには、机・椅子・書架のほとんどが木製だったので、自然のベージュ色にやわらかく包まれような感じを覚えました。ベージュは日本人には、畳などでなじみの深い色でもあり、やすらぎと、安心感をあたえるもので、わたしは、ここで過ごしているとリラックスできます。このライブラリーセンターに一度足を踏み入れたことのある人なら、私だけでなく、多分ほとんどの人がそう感じたのではないのでしょうか。ライブラリーセンターはこまめに清掃されていてゴミ一つ見つけるのに苦労するくらいとても清潔感のある図書館です。1階には、アートギャラリーがあり、定期的に学生の作品が展示されていたり、4階では大きな窓から向かいの山が見渡せて晴れた日などとても爽やかです。今年で在学4年目になりますが、これまでに一人で集中して机に向かうとき、グループで課題をこなさなければならないとき、友人とコミュニケーションをとるときなど多くの時間をそんなライブラリーセンターで過ごしました。

パソコンもどんどん増えて、私が入学した時にはライブラリーセンターの蔵書が検索できるコンピュータが5台あるだけでしたが、一昨年にはCD-ROM専用のパソコンが3台、昨年からは学内LANに接続してインターネットや電子メールなどもできるパソコンが4台、また今年の夏にはさらに液晶ディスプレイパソコンが5台設置されました。外国語学部棟の2階にあるCAI教室が授業中で使えないときや、図書館で勉強中、今すぐ調べたいことが出てきたときに便利です。図書館にあるパソコンの利用者はどんどん増えているようですが、なかには短期・長期の外国人留学生も多く、パソコンの利用方法について話しているうちに自然と交流の場がもてたりしたこともありました。

図書館といえば、もちろん読書ですが、私が気に入っている英語のフレーズを少し引用させて載きたいと思います。

I have somewhere seen it observed that we should make the same use of a book that the bee does of a flower; she steals sweets from it, but does not injure it.  
(O. Goldsmith)

私たちは、蜂が花からそれらを傷つけることをせずに蜜だけを取っていくように、書物もまた、そのように読むべきであるというような内容の文です。好きな書物、必要な書物を好きなだけ読めるのも学生の時だけだといわれます。学習であり、教養になり、またさらにお金のかからない娯楽でもある読書の蜜を、私も働き蜂のごとくぶんぶん飛び回って集めなくてはいけないかな、と思っています。学生の多様な興味に応えてくれるだけの情報、書物はここに整っているし、またインターネットを通じてこの空間をさらに世界にまで広げることができます。そんな恵まれた環境があるのですから、残りの学生生活も有意義なものにしたいと思っています。

最後に先生、司書、関係の方々、いつも暖かく見守って戴いて有難うございます。

(外国語学部4年生)



ライブラリーセンターから望む医王の山

## 心と知のオアシス CLEVER HOUSE

ソウ

コウ



私は法学部法律学科4年生の留学生です。初めて北陸大学に来たのは、約3年半前の3月の雪が降りしきる日でした。ずっと大都市の北京で暮らしていた私にとっては、この景色の美しさには大変驚かされました。

当時を振り返り、真っ先に大学を見学し、一番頭の中に残ったのは「CLEVER HOUSE」という素敵な名前を持つ図書館でした。建物も鋭角さと曲線のバランスが見事でした。そんな「CLEVER HOUSE」内に足を一步踏み入れた瞬間から静かな雰囲気と特別な香りを強く感じました。初めてなのに、以前に来たことがあるかのように、何故か懐かしい印象を持ちました。4階の窓から見た山々に包まれた外の景色、また、書架・机・椅子に至るまですべて統一的にレイアウトされている「木」の内装等私の心は気分がのびのびして、大変爽やかでした。「光陰矢のごとし」と言われるように、もう4年生になりましたが、その新鮮な気持ちは頭の中に今でもなお残っています。

今まで私は「CLEVER HOUSE」と共に過ごした4年間にたくさんの収穫がありました。館内には日本を始め、国内外の雑誌や新聞がたくさん配架されています。大きな国際事件が起こった場合、私は各国の新聞を開き、比較しながら読むと、それぞれの「国」にそれぞれの「立場」があり、それぞれの角度から書かれた記事には、当然それぞれの「色」が出ています。これらを読んで、各国の考え方が良く理解出来ました。このお陰で、私の考え方も客観的になってきました。「CLEVER HOUSE」は正に私にとって、教室以外の学習の場です。

また、授業をサポートするための図書が重点的に配架されており、法律や判例集等の専門書が量・質的にもたくさんあります。留学生にとっては、専門分野の「言葉」は大変難しく、先生の講義や教科書の中で分かり難いことがあったら、専門書コーナーを探しまわって、自分にとって一番分かりやすい本を探し出しました。その甲斐あり、講義と教科書の理解度を深めることが出来ました。初めて法律を勉強する時、法律の概念や解釈がすごく覚えにくく、同じ法律の概念や解釈についても、「CLEVER HOUSE」に来て色々な先生が書いた図書を読み比べたら、自然と頭に残ることが出来ました。「CLEVER HOUSE」は法律学科に所属する私の学習向上を推進してくれたり、助けてくれました。

こんなに美しく囲まれた知的で優雅な雰囲気のある「CLEVER HOUSE」で読書・勉強・自己研鑽が出来、本当に幸せだと思います。



(法学部4年生)



## ワシントン大学 Health Sciences Library

山本千夏

アメリカのワシントン州シアトルにあるワシントン大学は、1862年に創立した歴史ある州立大学です。北陸大学海外留学助成金により、この大学の医学部に私は1998年4月から9月までの6カ月間留学する機会を得ました。総学生数35,000人、そのうち海外からの留学生が約3,000人。大学内には、図書館がなんと18もあり、その蔵書の中に日本の電話帳すらあるとのこと。それらの図書館の中で私が実際に利用していたのは、Health Sciences Libraryです。Health Sciences Libraryは



左下からメディカルセンター、ヘルスサイエンスセンターと続いている

Health Sciences Centerの2階に図書館のメインフロアがあり、図書館のスタッフが約50人働いていて、月曜から木曜は7:00～21:00、金曜は7:00～19:00、土曜日は10:00～20:00、日曜日は12:00～20:00と年中無休です。この図書館の蔵書は、医療系出版雑誌約9,000タイトルです。図書館の大部分は学術雑誌保管棚が図書館の向こうの端から端までずっと続いており、その多さに驚嘆しました。このフロアにはカンファレンスルームも完備していました。図書館の入口のカウンターにノートが有り、カンファレンスルームを使いたい場合は、そのノートに借りたい時間、および氏名（代表者）を書き込めば誰でも簡単に使用できます。見ているともっばら学生が勉強する自習室としてグループで借りているようでした。また、至る所に検索用のコンピュータ20台程、さらにコピー機が15台もあります。午前中はすいていますが、学生などが頻繁に利用する午後にはコンピュータもコピー機も空きの順番待ちをしなくてはならないほどです。図書館の2階（Health Sciences Centerの3階）には、学生が自由に使えるコンピュータールームがあり、ウィンドウズが約60台、マッキントッシュコンピュータが約30台あり用途に応じて使えます。このコンピュータールームでは定期的にWordやExcelなどの講習会が行われたりしていました。図書



メディカルセンター

館だけでなく、学生が使えるコンピュータは至る所にあり、さすがコンピュータ先進国のアメリカといったところでしょうか。

現在では、北陸大学でも学内LANや教室にある端末からインターネット上のMEDLINEなどがようやく利用出来るようになりましたが、アメリカでは一般的に普及しています。研究室内のコンピュータから簡単に論文検索が出来ます。それだけでなく、必要な文献があれば、図書館へ行けばたいい必要な論文

がコピーできます。蔵書が多く、これが歴史ある医学部の図書館の強みでしょうか。日本では、雑誌が届くのに時間がかかり、検索してもお目当ての雑誌がまだ届いていないということもあります。この図書館では、新着雑誌の棚には、毎週たくさんの雑誌が並びます。逆に日本薬学会が出版している Chemical Pharmaceutical Bulletin や Biological Pharmaceutical Bulletin などは、当然のことですが日本より届くのに1ヶ月くらい遅いわけです。



心を和ませるキャンパス内の噴水

また、図書館だけでなく、フォトセンターも充実していました。自分でとったフィルムの現像はもちろんのこと、スライドの作製も決められたソフトで編集してあれば、フォトセンターへメールで送ればスライドを作製してくれて、できあがると連絡が入り取りに行くだけです。その他にも、コピーしてくれるセンターもいくつか有り、OHPシートやカラーコピーも作製してくれます。



桜の花が咲き乱れるキャンパス

ワシントン大学は、アメリカの北西に位置し、私が留学していた4月から9月はとても美しい季節でした。春はキャンパス内にある桜が咲き乱れ、初夏には芝生の緑や様々な花々が咲き、秋には紅葉した木々が美しく、季節感あふれる風景は毎日の研究生生活をより豊かなものにしてくれました。ワシントン大学のような伝統のある大学に留学する機会が得られ、恵まれた環境で研究できたことはとてもよい経験になりましたが、研究室だけでなく図書館をはじめとする充実した施設が研究・教育をバックアップしていることがそのような環境を支えていることを実感しました。北陸大学も、図書館（クレバーハウス）、コミュニティハウスなどの施設および学内LANが利用されていますが、教育・研究の充実にもっと活用され、北陸大学の教育研究環境が更によりよいものになることを期待したいと思います。

（薬学部助手・薬博）



### 本学の先生方からの寄贈図書

本学の教職員から、下記の通り、ご自身執筆の図書や愛読書のご寄贈を賜りました。深く感謝申し上げます。

著者名	著書名	寄贈者
堀岡 正義	インビボ放射性医薬品添付文書集 (平成11年4月1日現在)	桐山 典城
吉田 荘人	中国名医列伝	山本 郁男
銭華、劉徳連編	中国古代詩歌選読	銭 華
パレッシュ・チャトパディヤイ	ソ連国家資本主義論	叶 秋男
国際外交研究所安全保障研究会編	新仮想敵国	畠山 圭一
山崎 正	現代行政の進展開	山崎 正



薬学部 山本 郁男 教授 スケッチ展

## ギャラリーホール

ライブラリーセンター1階のギャラリーホールでは、今春、薬学部教授の山本郁男先生のスケッチ展を開催しました。現代人の約70%は何らかの形でストレスが溜まっていると言われていいます。ほんの一時、ストレス社会を忘れ、美術の鑑賞に没り、澄みわたった大空のような新鮮な気持ちで新たに勉学に励んで頂ければと思います。常時、絵画等が展示されているのでご覧になって下さい。

## 学内LANについて

本学は、今年度開学25年目を迎えました。世間では情報化社会とされている中、いよいよ本学にも学内LANが太陽が丘キャンパス・薬学キャンパス間に本格的に結ばれます。その予備段階として、ライブラリーセンター本館には9台・薬学部分館には6台設置されています。学生数から観てもまだまだ、台数は不足していますが、今後、年次的に増設していき、よりの確且つスピーディーな情報の提供を学生の皆さんに与えていきたいと思ひます。



また、薬学キャンパスでは、研究室にある端末から薬学部分館の二次資料「CURRENT CONTENTS」の検索を行うことが出来ますが、これはLANを利用した図書館サービスの第一歩で、今後も更にサービスの向上をはかります。

しかし、真の生きた情報は機械がすべてではありません。色々な人との出会い等人間同士の触れ合いから生まれるものであります。インターネットが情報のすべてと思うのは大きな間違いです。相手に物事を心より伝える方法・並びに伝わる優先順位は、直接会って話す 対面は出来ないが電話で話す インターネット等一方通行的な電子通信だと思ひます。情報が氾濫している最近、機械に振り回されないように「正しい情報の選択」を省みる必要があると思ひます。

## 編集後記

学生の皆さんは、いよいよ後期の授業が開始し、夏休み中に各自が得た体験を十分に活用されていると思われまひます。驚かれた方も多ひと思われまひますが、太陽が丘キャンパスに「コミュニティーハウス」が竣工されました。クラブの学生はさることながら、全学生にとっても十分に潤いのある学生生活を与えてくれることでしょう。

また、「サウンドトラック」ではエアロピクス教室等の様々なエクササイズも行われまひます。

今年の猛暑の疲れを、ライブラリーセンターを始めサウンドトラックやコミュニティーハウスの利用で心身共に癒し、充実した気持ちで講義を受け、活力ある学生生活を送って頂ければと願ってまひます。

## CONTENTS

水上勉の「電腦暮し」をたまたま読んで .....	1
ベルリンの壁の崩壊、そして10年 .....	2
上海外国語大学図書館について .....	3
グローバルな「蜜」を求めて .....	6
心と知のオアシス CLEVER HOUSE .....	7
ワシントン大学 Health Sciences Library.....	8
学内LANについて .....	10

北陸大学ライブラリーセンター報  
NO.8 2nd-Half

平成11年10月15日発行

編集・発行：北陸大学ライブラリーセンター  
〒920-1180 金沢市太陽が丘1-1  
TEL (076) 229-3021  
FAX(076) 229-4850

印刷：カンダ印刷株式会社